

No.創出-1-1	植栽種選定における地域の文化・歴史性への配慮
-----------	------------------------

技術の目的

本区の文化歴史において、植物や景観と関係したものが数多く見受けられることから、植栽種の選定に文化・歴史を反映させることで地域性豊かな景観を創出する。

導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

技術の内容・事例

■技術の内容

1. 植物や景観と関連のある町名由来^{出典1}
 - ・江戸開府以前、現在の日比谷から大手町にかけては日比谷入り江、日本橋から有楽町にかけては江戸前島と呼ばれ、本区一帯は葦原や干潟、浅い海がひろがっていた。

表 江戸期の環境や文化に由来する地名の事例

町名	由来
日本橋芳町 (現日本橋人形町)	江戸時代の初め頃までヨシなどが群生していた所で、町名は江戸期の俗称。
日本橋中洲	町名の由来は明らかではないが、水路を隔てて大川（隅田川）へ築き出した市街地で、 <u>荻が群生する洲</u> だったことから、この名が生まれたといわれる。
日本橋橋町 (現東日本橋)	江戸時代初期に京都西本願寺の別院があり、その頃、 <u>門前に立花を売る家が多く立花町</u> としたが、後に橋町に改称。

2. 江戸期の園芸植物^{出典2}
 - ・江戸期においては園芸文化が大きく発展し、伝統園芸植物の作出や育成が大名から町人まで幅広く流行していた。江戸時代に独自の園芸文化として興隆し、園芸品種として栽培され、明治時代（西暦1868年～1912年）以降においてもその美的基準において栽培、育種されている植物の総称を「江戸伝統園芸植物」と呼ぶ。

表 江戸期の園芸植物の事例

分類	対象植物名（和名）
木本	花梅（ウメ）、木瓜（ボケ）、桜（サクラ）、花桃（ハナモモ）、楓（カエデ）、椿（ツバキ）、山茶花（サザンカ）、躑躅（ツツジ）、臈月（サツキ）、石楠花（シャクナゲ）、藤（フジ）、牡丹（ボタン）、紫陽花（アジサイ）、百両（カラタチバナ）、紫金牛（ヤブコウジ）、万両（マンリョウ）、南天（ナンテン）、花柘榴（ハナザクロ）、松（マツ）、杉（スギ）
草本	朝顔（アサガオ）、万年青（オモト）、花菖蒲（ハナショウブ）、杜若（カキツバタ）、菊（キク類）、桜草（サクラソウ）、芍薬（シャクヤク）、伊勢撫子（ナデシコ）、福寿草（フクジュソウ）、細辛（サイシン）、葉蘭（ハラン）、石菖（セキショウ）、石路（ツワブキ）、雪割草（ユキワリソウ）、君子蘭（クンシラン）、蒲公英（タンポポ）、擬宝珠（ギボシ）、紋天竺葵（モンテンジクアオイ／ゼラニウム）、花蓮（ハナハス）、杜鵑草（ホトトギス）
ラン類	富貴蘭（フウラン）、長生蘭（セッコク）、春蘭（シュンラン）、寒蘭（カンラン）、錦蘭（ニシキラン／ミヤマウズラ）
ヤシ類	観音竹（カンノンチク）
シダ類	岩柏（イワヒバ）、松葉蘭（マツバラ）、変化葉瓦葺（ノキシノブ）

3. 地域の歴史を知る^{出典 3-4}

- ・ 中央区の地域ごとの歴史や文化をさらに知るために、郷土天文館の収蔵資料がホームページ上で公開されているほか、各種ガイドマップなども活用できる。

表 地域の歴史を知るための情報源

中央区収蔵品 アーカイブス 出典 3	郷土天文館が所蔵する収蔵資料約 2 万 3,000 点（歴史・民俗資料約 1 万 1,000 点、考古資料約 1 万 2,000 点）をデータベース化し年代検索（江戸、明治、大正、昭和、平成）、場所検索（京橋地域、日本橋地域、月島地域）など、さまざまな条件での検索が可能。
中央区 ふれあい 街歩きマップ 出典 4	中央区を 6 つのエリアに分け、おすすめスポットやおすすめ散策コースを絵地図で紹介している。スマートフォンアプリ版では、江戸時代の古地図などと地図を切り替えて、現在位置を確認することができる。

■ 出典・参考資料

- ・ 1 中央区 HP 「町名由来」
<https://www.city.chuo.lg.jp/smph/kusei/syokai/tyomeiyurai/index.html>
- ・ 2 庭園都市 東京トラベル&ヒストリー「伝統園芸植物の種類」
<https://www.tokyo-park.or.jp/special/botanicallegacy/ja/index.html>
- ・ 3 中央区収蔵品アーカイブス
<https://www.city.chuo.lg.jp/bunka/timedomeakashi/archives.html>
- ・ 4 中央区観光協会 HP 「ガイドマップ&ダウンロード」
<https://www.chuo-kanko.or.jp/?p=we-page-single-entry&spot=124296&type=spot&theme=theme-4>

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
◎				○	

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
●										●						